

令和7年度

授業計画

Syllabus 2025



日本大学藤沢高等学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Senior High School



日本大学藤沢中学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Junior High School



日本大学藤沢中学校

NIHON UNIVERSITY Fujisawa Junior High School

— 第 1 学年 —

教科名	科目名	単位数	年・組
国語	国語	4	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい国語1』（東京書籍）	『常用漢字ダブルクリア五訂版』（尚文出版） 『まんがで理解楽しい文法』（とうほう） 『サクセスコーチ中学国語1年』（横浜ブロッサム） 『カラー小倉百人一首』（啓林館） 『新編 新しい書写』（東京書籍）

1. 学習の目標

「読む・聞く」「書く」「話す」の三領域の学びを支える言葉の力の基礎を習得する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
様々な知識を得るための技能（語彙力、メモやノートの取り方、情報の調べ方・読み取り方・まとめ方など）を身につけている。	感受性・論理性など思考や判断に必要な能力を磨き、考えをまとめてわかりやすく伝える力を身につけている。	左記の力を身につけることにおいて、自分の学びを振り返ることや学ぶことに対して粘り強く取り組んでいる。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	「詩の心——発見の喜び」	同値関係一例と意見 要旨把握—主題・結論・根拠の統合を通じて 詩の形式・表現技法	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	5	「私たちの未来」 五色百人一首 まんがで理解楽しい文法 常用漢字ダブルクリア	色彩イメージの把握を通じての象徴の考察 因果関係—心情理解の問題 対比を通じての主題把握 黄 20 首の暗唱 言葉の単位(文章・段落・文・文節・単語) 5級①②	
	6	「オオカミを見る目」 「伊曾保物語」	同値関係一例と意見 対比関係—対立項と対立点の把握→話題の把握へ 要旨把握—主題・結論・根拠の統合を通じて 助詞の省略・主語の確定など 古典的仮名遣いの習得 同値関係—意見と具体例	
	7	五色百人一首 まんがで理解楽しい文法 常用漢字ダブルクリア	青 20 首の暗唱 文節の働き 主語・述語／修飾語・接続語・独立語 5級③④⑤	
2	9	「私のタンポポ研究」 「竹取物語」	同値関係一例と意見 対比関係—対立項と対立点の把握→話題の把握へ 要旨把握—主題・結論・根拠の統合を通じて 助詞の省略・主語の確定など 古典的仮名遣いの習得 冒頭部分の暗唱	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	10	五色百人一首 まんがで理解楽しい文法 常用漢字ダブルクリア	ピンク 20 首の暗唱 文節の働き 連文節・文の成分／文節相互の関係 5級③④⑤	

	11	「ニュースの見方を考えよう」 「矛盾」	同値関係―例と意見 対比関係―対立項と対立点の把握→話題の把握へ 要旨把握―主題・結論・根拠の統合を通じて 助詞の省略・主語の確定など 古典的仮名遣いの習得 書き下し文の暗唱	
	12	五色百人一首 まんがで理解楽しい文法 常用漢字ダブルクリア	緑 20 首の暗唱 文の組み立て 文の成分の順序・倒置/指示する語句・接続する語句 5 級⑧⑨4 級①	
3	1	「少年の日の思い出」	設定の把握―時・場所・登場人物 因果関係―心情理解の問題 対比を通じての主題把握	授業への取り組み 提出物 小テスト 定期試験
	2	「わたしの中にも」	同値関係―「どういうことか説明せよ」問題への対応 詩の形式・表現方法 主題の把握	
	3	五色百人一首 まんがで理解楽しい文法 常用漢字ダブルクリア	オレンジ 20 首の暗唱 言語の単位～文の組み立て 5 級⑥～⑨4 級①	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
社会	社会	4	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい社会 地理』（東京書籍） 『中学校社会科地図』（帝国書院）	『地理の資料』（正進社） 『中学実力練成テキスト 社会 全』（文理）

1. 学習の目標

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
世界と日本の地域構成、地域の規模に応じてとらえた地域的特色、世界と比べてみた日本の地域的特色などを理解し、その知識を身につけている。地図や統計、映像など地域に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追究し考察した過程や結果を地図化したり、報告書などにまとめている。	地理的事象から、課題を見だし、日本や世界の地域的特色を地域の規模に応じて環境条件や人々の営みなどに関連づけて多面的・多角的に考察し、公正に判断する。また、学び得た知識を発表や討論などを通して他者に伝えることができる。	地理的事象に対する関心を深め、それを意欲的に追究し、広い視野に立って我が国の国土の特色について認識しようとする。また、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	第1編 世界と日本の姿 第1章 世界の姿	世界を地理的に認識するための座標軸として、地球儀や地図を活用して大陸と海洋の形状や分布を取り上げ、地球規模での位置関係をとらえるための技能と知識を身につける。 国境の意味、国名の由来、大きい国と小さい国、人口の多い国と少ない国、海洋国と内陸国などの視点から世界の国々を大観する。 現代の世界は、州や大陸およびそれらをいくつかに分けた地域でとらえられていることや、さまざまな国々から構成されていることを理解する。	定期試験 提出物 授業への取り組み
		第2章 日本の姿	日本の国土の位置および領域の特色と変化を世界的な視野から多面的・多角的に考察し、日本の現状を位置と領域の面から大観する。	
	5	第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境	緯度や経度の違いが、私たちの生活にどのように影響するのか、気温の変化や時差をふまえて大観する。世界各地の住居や人々の生活の違いに着目し、気温や降水量の変化と照らし合わせながら、世界の気候について理解する。	
	6	第2章 世界の諸地域	世界の地域的特色を明らかにする諸活動に、意欲を持って取り組む。	
	7	第2章 世界の諸地域	世界の地域的特色を明らかにする諸活動に、意欲を持って取り組む。	
2	9	第2章 世界の諸地域	世界の地域的特色を多面的・多角的に検討させるとともに、大観化してとらえ、適切に表現する仕方などを考える。	定期試験 提出物 授業への取り組み

10	第3編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の手法	諸資料を有機的に関連づけたり、諸要素を適切に取捨選択したりして、地域的特色を大観化、概略化してとらえる技能を身につける。 都道府県の名称の由来や成り立ちについて調べる活動を通して、地名や地図への関心を高める。 都道府県の名称と位置を地図上で確実に身につけ、日本の地域構成の基本的な枠組み（地域区分）をとらえる活動に意欲を持って取り組む。	
	第2章 日本の地域的特色と地域区分	世界と日本の人口について、世界的視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色をとられる活動を通して、わが国の国土的特色を人口の面から大観する。また、世界の人口分布や人口増加には大きな地域的偏りがあり、人口増加が著しい国々について人口増加の原因を理解するとともに、どのような対策がとられているか考える。日本の資源・産業については、世界的視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色をとらえる活動を通して、わが国の国土的特色を資源・産業の面から大観する。 エネルギー資源の移動や消費などを題材にして、その類似性や共通性から世界の国々の特色を明らかにする調べ方や学び方を身に付ける。	
	第3章 日本の諸地域	日本の自然環境について、世界的な視野から日本を一つの地域として見た日本の地域的特色と、日本の視野から見た国内の諸地域的特色をとらえる活動を通して、わが国の国土的特色を自然環境の面から大観する。	
3	第3章 日本の諸地域	地形や気候が人々の生活や生産活動と関わっていることを学び、自然環境の基本的要素として地形と気候を取り上げる意味を理解する。 自然環境は資源であるとともに災害を生じさせる二面性を持っていることを理解する。	定期試験 提出物 授業への取り組み
	第3章 日本の諸地域	日本の人々の生活や文化について、世界的視野から日本を一つの地域としてみた地域的特色と、日本全体の視野から見た国内の諸地域的特色をとらえる活動を通して、わが国の国土的特色を生活と文化の面から大観する。	
	第4章 持続可能な地域の在り方	地球規模の課題や日本の地域的な課題について考察し、それぞれの課題や背景の地域的特色を理解する。身近な地域の地域的特色をとらえる視点や地域調査の方法を理解するとともに、地域的特色をとらえるようにする。 自分の暮らす都道府県について、身近な地域の調査の学習成果を生かしながら、統計資料の収集・分析、調査活動によって、県の地域的特色を多面的に理解する。その他の都道府県について、テーマを設定して学習する学習方法や比較や結びつきを明らかにする方法によって、各都道府県的特色を理解するとともに、その方法を習得する。 統計資料の収集や分析、調査結果の表現などの諸能力を育む。統計資料の分析、地図や写真の読み取りや比較・関連づけ、調査結果の表現などの諸能力を育む。調査した国への関心をその他の国への関心へと継続させ、国家規模の地域的特色をとらえようとする意欲を持つ。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
数学	数学	5	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『これからの数学1』（数研出版）	『体系数学1代数編』（数研出版） 『体系数学1幾何編』（数研出版） 『体系問題集数学1代数編』（数研出版） 『体系問題集数学1幾何編』（数研出版）

1. 学習の目標

中学生として基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を身につけるとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識できるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりしている。	数量や図形などの性質を見だし論理的・発展的に考察する力を養い、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現している。	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、数学を生活や学習に生かそうとする態度を養い、自ら問題解決の過程を振り返って評価・改善している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	○代数編 第1章 正の数と負の数 1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 四則の混じった計算	符号のついた数 数直線 絶対値 数の大小と不等号 加法 加法の計算法則 減法 加法と減法の混じった式 乗法 乗法の計算法則 累乗 除法 四則 数の集合と四則 素数と素因数分解 正の数、負の数の利用	授業への取り組み 定期試験 模試結果 小テスト 提出物
	5	第2章 式の計算 1 文字式 2 多項式の計算 3 単項式の乗法と除法 4 式の値 5 文字式の利用	文字を用いた式 文字式の表し方 いろいろな数量の表し方 単項式と多項式 同類項のまとめ方 多項式の加法と減法 単項式、多項式と数の乗法、減法 いろいろな計算 乗法 除法 数に関する問題への利用 図形に関する問題への利用	
	6	第3章 方程式 1 方程式とその解 2 1次方程式の解き方 3 1次方程式の利用 4 連立方程式	等式 方程式 移行を利用した方程式の解き方 いろいろな方程式 1次方程式の利用 方程式と解 比例式 等式の変形 連立方程式とその解 連立方程式の解き方	
	7	5 連立方程式の利用	A=B=Cの形をした方程式 連立3元1次方程式 連立方程式の利用 連立方程式と解	

2	9	第4章 不等式 1 不等式の性質 2 不等式の解き方 3 不等式の利用 4 連立不等式 第5章 1次関数 1 変化と関数 2 比例とそのグラフ 3 反比例とそのグラフ 4 比例, 反比例の利用	(不等式は夏季特別授業で扱う場合もある) 不等式 不等式の性質 不等式の解 連立不等式とその解き方 $A < B < C$ の形をした不等式 連立不等式の利用 関数 比例を表す式 座標 対称な点の座標 比例のグラフ 反比例を表す式 反比例のグラフ	授業への取り組み 定期試験 模試結果 小テスト 提出物
	10	5 1次関数とそのグラフ 6 1次関数と方程式 7 1次関数の利用	1次関数 1次関数の値の変化 1次関数のグラフ 1次関数の式を求める 2元1次方程式のグラフ x軸, y軸に平行な直線 連立方程式とグラフ	
	11	○幾何編 第1章 平面図形 1 平面図形の基礎 2 図形の移動 3 作図	直線, 線分, 半直線 2直線の関係 距離 角 円 円と直線 対称な図形 平行移動 回転移動 対称移動 垂直二等分線 角の二等分線 垂線 円と接線 いろいろな作図	
	12	4 面積と長さ	三角形, 四角形の面積 円の面積と周の長さ	
3	1	第2章 空間図形 1 いろいろな立体 2 空間における 平面と直線 3 立体のいろいろな見方 4 立体の表面積と体積	いろいろな立体 平面, 直線の位置関係 2直線の位置関係 直線と平面の位置関係 2平面の位置関係 面で動いてできる立体 立体の切断 投影図 展開図 表面積 角柱と円柱の体積 角錐と円錐の体積 級の表面積と体積 いろいろな立体の体積	授業への取り組み 定期試験 模試結果 小テスト 提出物
	2	第3章 図形の性質と合同 1 平行線と角 2 多角形の内角と外角 3 三角形の合同 4 証明	対頂角 同位角と錯角 平行線と同位角, 錯角 三角形の内角と外角 多角形の内角と外角 合同な図形 三角形の合同条件 仮定と結論 証明のしくみと手順 定義, 定理	
	3			

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	理科（化学・生物）	2	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『未来へひろがるサイエンス1』（啓林館）	『中学実力練成テキスト 理科1年』（日本教材出版） 『最新理科便覧神奈川県版』（浜島書店）

1. 学習の目標

身近な植物や物質について、観察・実験を通して認識を深めることにより、生命を尊重し、自然環境を保全しようとする意欲と態度を習得する。

2. 評価の観点

1. 知識・技能	2. 思考・判断・表現	3. 主体的に学習に取り組む態度
植物の事物・現象について理解し、知識を身につける。 身のまわりの物質に関する事物・現象について理解し、知識を身につける。 植物の事物・現象についての規則性を見出し、創意ある報告書を作成できる。 物質の事物・現象について、実験操作や記録の仕方を習得し報告書を作成できる。	植物に関する事物・現象のなかに問題を見だし、実験し、総合的に考察できる。物質の事物・現象のなかに問題を見出し、実験し、問題を解決できる。	植物のつくりとはたらき、なかまに関する事物・現象に関心をもち、意欲的に探求する。物質の性質や水溶液に関する事物・現象に関心をもち、意欲的に考察する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	いろいろな生物とその共通点 1章 植物の特徴と分類 1. 花のつくり	アブラナとツツジの観察を通し、花の作りには共通点があることを見出し、花が生殖器官であることを学習する。	授業への取り組み 定期試験 提出物 小テスト
	5	1章 植物の特徴と分類 2. 子葉・葉・根のつくり 3. 種子をつくらない植物	種子植物は被子植物と裸子植物に分けられることを理解する。	
	6	1章 植物の特徴と分類 4. 植物の分類 2章 動物の特徴と分類 1. 動物の体のつくりと生活 ～3. 背骨のない動物	これまでの観察記録より、種子植物が分類できることを学習する。	
	7	2章 動物の特徴と分類 4. 動物の分類	動物の生活と体のつくりの特徴を理解し、動物は脊椎動物と無脊椎動物に分類できることを学ぶ。また、脊椎動物と無脊椎動物をさらに細かく分類する。	
2	9	身のまわりの物質 1章 いろいろな物質とその性質 1. 物質の区別 2. 重さ・体積と物質の区別	身のまわりの物質に興味・関心をもち、どのようにして物質を区別すればよいかを考え、その性質を調べる方法について学ぶ。金属であるか調べる実験を行い、金属に共通な性質を見出すとともに、密度によって物質を区別することができることを学ぶ。白い粉末状の物質を、さまざまな方法で調べ、有機物と無機物について学習する。	授業への取り組み 定期試験 提出物 小テスト
	10	2章 いろいろな気体とその性質 1. 気体の区別 2. 身の回りのものから発生した気体の区別 3章 水溶液の性質 1. 物質のとけ方	気体の発生・捕集方法・性質の調べ方について学習する。 水溶液中では溶質が均一に分散していることを学習する。	

2	11	2. 濃さの表し方	濃度について理解し、質量パーセント濃度の計算を学習する。	授業への取り組み 定期試験 提出物 小テスト
	12	3. 溶質のとり出し方	再結晶により混合物から純粋な物質が取り出せることを学習する。	
3	1	4 章 物質のすがたとその変化 1. 物質のすがたの変化	水以外の状態変化の例をあげて、状態変化と温度の関係を学習する。	授業への取り組み 定期試験 提出物 小テスト
	2	2. 状態変化と温度	状態変化における体積と質量変化について学習する。	
	3	3. 混合物の変化	(3 学期は年間の復習、または 2 年次の予習をおこなう。)	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
理科	理科(物理・地学)	2	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『未来へひろがるサイエンス1』（啓林館）	『中学実力練成テキスト 理科1年』（日本教材出版）

1. 学習の目標

- ・身のまわりの事物・現象について学び、光や音の性質・規則性や力の性質について理解するとともに、観察・実験を通してこれらの事象を日常生活と関連付けて科学的な見方や考え方を養い、光・音・力のはたらきに関する興味・関心を高める。
- ・地下構造を理解し、大地の変化や岩石の分類を正しく理解する。
- ・地層の重なり方について学び、化石から生物の進化と類縁関係を正しく理解する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・理科に関する基礎的な事柄や自然と人間生活とのかかわりについて理解する。 ・正しく安全に実験器具を使用し、実験する。	・学習内容に関心を持ち、進んで取り組んでいる。 ・実験の結果をわかりやすくまとめレポートを作成する。	・課題に対し、既習の知識をもとに、根拠をもって自分の考えをまとめ、予想したり、検証の方法を考えたり、実験によって得られた結果を考察する。 ・提出物は完成し期限を守り提出する。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	光・音・力による現象（物理） 1章 光による現象 1. 光の進み方 ・光がはね返るときのような様子 ・ものが見えるわけ ・鏡以外の物体の表面で反射する光	光に関連する身近な事象に興味・関心をもち、物体が見えることと光の進み方には関係があることを理解する。 ・光の反射について理解する。 ・ものが見える理由を考え、理解する。 ・乱反射について理解する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 出席状況 行動観察
	5	2. 光が通りぬけるときのような様子 ・光の色 3. レンズのはたらき	光の屈折、全反射について理解する。 白色光にはさまざまな色が混じっていることを理解する。 凸レンズを用いた実験から、レンズのはたらきを学ぶ。レンズと物体の位置関係によってできる像が変化することを理解する。	
	6	2章 音による現象 1. 音の伝わり方 ・音の伝わり方と空気 ・音を伝える物質 ・音の伝わる速さ	音について興味・関心をもち、音は、物体の振動によって生じることを理解する。 音はどのような物質にどのような速さで伝わるか学習する。	
	7	2. 音の大小と高低 ・音の振動の様子と音のちがいがい	音が聞こえるためには、空気など、音を波として伝える物質の存在が必要であることを理解する。 音の聞こえ方がどのような理由で変わるのか理解する。	

2	9	3章 力による現象 1. 力のはたらき ・いろいろな力 2. 力の大きさのはかり方 3. 重さと質量	力と関係がある現象について興味・関心をもち、物体に加わる力のはたらきを説明できるようになる。 力の計測についての実験から、はたらく力を可視化する方法について理解する。 重さと質量の違いについて理解する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 出席状況 行動観察
	10	4. 力の表し方 ・矢印を使った力の表し方 ・面で働く力や重力の表し方 5. 1つの物体に2つ以上の力がはたらくとき ・摩擦力と垂直抗力	力の三要素について学び、力を図中に図示できるようになる。 力のつり合いについて学び、力のつり合いの条件を理解する。 摩擦と垂直抗力について理解する。	
	11	活きている地球（地学） 1章 身近な大地 1. 身近な大地の変化 ・地形の変化から読みとく大地の変化 ・大地をつくるものから読みとく大地の変化 2. 地域の大地の観察	大地の変化は地形の変化として現れることを理解し、変化の種類について学ぶ。 大地をつくる地層の違いから、大地の変化について考える。 地域の身近な大地を観察する。	
	12	2章 ゆれる大地 1. ゆれの発生と伝わり方	地震の発生原因、伝わり方を理解する。	
3	1	2. ゆれの大きさ 3. 日本列島の地震 3章 火をふく大地 1. 火山の噴火 ・火山によって違う火山噴出物 ・噴火のしくみ 2. マグマの性質と火山	地震のゆれの大きさの違いやマグニチュードについて学ぶ。 日本列島でどのようにして地震が発生しているのかを理解する。 火山の噴火、火山噴出物について理解する。 マグマの性質と火山の形の関係性について理解する。	授業への取り組み 提出物 定期試験 出席状況 行動観察
	2	3. マグマからできた岩石 4章 語る大地 1. 地層のでき方 2. 地層の岩石 3. 地層・化石と大地の歴史 ・地層ができた環境の推測 ・地層ができた時代の推測 ・地層の観察 ・離れた場所の地層の対比と広がり	火成岩のでき方による分類について理解する。 地層のでき方について理解する。 堆積岩の特徴を捉え、分類を理解する。 示相化石、示準化石について学び、環境、時代の推測方法を学習する。 地層の観察方法を学習する。 各場所の地層を比べ離れた地域の地層の推測を学習する。	
	3	4. 大地の恵みと災害	大地で起こる災害について理解する。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
保健体育	保健体育	3	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『最新中学校保健体育』（大修館書店）	『健康手帳』（神奈川県学校保健連合会）

1. 学習の目標

運動の楽しさや喜びを味わいながら体力の向上をはかり、健康を保持増進しながら、自己や仲間の安全を考え、互いに協力しながら運動を実践できるようにする。また、ルールやマナーを守り、自己の役割が果たせるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
健康・安全についての基礎的な知識と各種の特性に応じた基本的技能を身につけている。授業や各種目のルールをよく理解し、実践している。	自己の課題を発見し、解決を目指して運動の仕方を工夫している。また、その場の状況に応じて臨機応変に身に付けた技能を活用することができ、自分自身の意図や考えを表現することが出来ている。	健康・安全に留意して、自己の最善を尽くして運動に取り組もうとしている。互いに協力しながら運動や健康の課題に主体的に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	○体づくり運動 ・ラジオ体操 ・集団行動 ・新体力テスト	・ラジオ体操第一 ・整列、方向転換、人員点呼、列の増減、行進等 ・50m 走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験 定期試験
	5	○体づくり運動 ・新体力テスト	・50m 走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし	
	6	○体づくり運動 ・新体力テスト ○水泳	・50m 走、持久走、ハンドボール投げ、立ち幅跳び、握力、長座体前屈、反復横跳び、上体起こし ・水慣れ、蹴伸び、クロール	
	7	○水泳 ○保健 ・調和のとれた生活 ・心身の発達と心の健康	・水慣れ、蹴伸び、クロール ①健康の成り立ち ②運動と健康 ③食事と健康 ④休養・睡眠と健康 ①体の発育・発達 ②呼吸器・循環器の発育・発達 ※保健は天候に応じ適宜実施	

2	9	○器械運動（男子） ・マット運動 ○タッチラグビー（女子）	・前転、後転（開脚、伸膝）、補助倒立等 ・ボール慣れ、パス（対人、ランニング）、キック 集団技能（チーム内のコンビネーション技術向上）、 ゲーム等	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験 定期試験
	10	○ダンス	・現代的なリズムのダンス、リズムダンスの創作	
	11	○卓球（男子） ○器械運動（女子） ・マット運動	・フォアハンドストローク、バックハンドストローク ラリー、ダブルス（習熟状況を見て判断）、ゲーム等 ・前転、後転（開脚、伸膝）、補助倒立等	
	12	○卓球（男子） ○器械運動（女子） ・マット運動 ○保健 ・心身の発達と心の健康	・フォアハンドストローク、バックハンドストローク ラリー、ダブルス（習熟状況を見て判断）、ゲーム等 ・前転、後転（開脚、伸膝）、補助倒立等 ③生殖機能の成熟（１） ④生殖機能の成熟（２） ⑤性への関心と性情報への対処 ⑥知的機能・情意機能の発達 ⑦社会性の発達と自立 ⑧自己形成 ⑨欲求とその充足 ⑩心と体のかかわりとストレス ⑪ストレスへの対処のしかた ※保健は天候に応じ適宜実施	
3	1	○陸上競技 ・長距離走	・タイム計測、呼吸法、ペース走等	授業への取り組み 提出物 行動観察 実技試験 定期試験
	2	○タッチラグビー（男子） ○卓球（女子）	・ボール慣れ、パス（対人、ランニング）、キック 集団技能（チーム内のコンビネーション技術向上） ゲーム等 ・フォアハンドストローク、バックハンドストローク ラリー、ダブルス（習熟状況を見て判断）、ゲーム等	
	3	○タッチラグビー（男子） ○卓球（女子） ○体育理論 ・運動やスポーツの多様性	・ボール慣れ、パス（対人、ランニング）、キック、 集団技能（チーム内のコンビネーション技術向上）、 ゲーム等 ・フォアハンドストローク、バックハンドストローク ラリー、ダブルス（習熟状況を見て判断）、ゲーム等 ①運動やスポーツの必要性和楽しさ ②運動やスポーツへのかかわり方 ③運動やスポーツの多様な楽しみ方 ※体育理論は天候に応じ適宜実施	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
音楽	音楽	1.5	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『中学生の音楽1』（教育芸術社） 『中学生の器楽』（教育芸術社）	なし

1. 学習の目標

多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てる。また、多様な音楽の良さや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
音楽を表現するために必要な、基本的な知識や技能を身に付けている。	音楽の要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取り、それらを音楽表現に生かしている。	音楽活動に親しみながら興味を持って、自ら進んで学習に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	歌唱	校歌について学習する。 歌詞を暗譜して歌えるようにする。 歌う時の正しい姿勢を習得する。	授業への取り組み 提出物 実技試験 定期試験
	5	歌唱 器楽	「We'll Find The Way～はるかな道へ」（杉本竜一）について学習する。 二部合唱を通して、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌唱する。 アルトリコーダーについて学習する。 リコーダーの歴史や構造、種類を理解する。 基本的な演奏方法を習得し、正しい姿勢で演奏する。	
	6	音楽鑑賞 歌唱	「春—第1楽章—」（ヴィヴァルディ）について学習する。 曲の構造や使用楽器を理解し、鑑賞する。 「浜辺の歌」（成田為三）について学習する。 曲の形式や拍子を理解する。 歌詞や旋律から情景を感じ取り、音楽表現を工夫して歌唱する。	
	7	実技試験	「浜辺の歌」の歌唱試験を行う。	
2	9	器楽 歌唱	アルトリコーダーについて学習する。 二部合奏を行う。 運指やタンギングに注意しながら演奏。 「赤とんぼ」（山田耕筰）について学習する。 詩の内容を理解し、旋律や強弱が生み出す情感を感じ取りながら歌唱する。	授業への取り組み 提出物 実技試験 定期試験
	10	音楽鑑賞	「魔王」（シューベルト）について学習する。 曲想と音楽構造との関わりを理解する。 旋律の雰囲気や伴奏の形の変化などを感じながら鑑賞する。	
	11	合唱	合唱コンクールの課題曲、自由曲の練習を行う。 パート練習を中心に行う。	
	12	実技試験	アルトリコーダーの実技試験を行う。	

3	1	合唱	合唱コンクールの課題曲，自由曲の練習を行う。 強弱などの表現を工夫し，調和したハーモニーを作り上げる練習を行う。	授業への取り組み 提出物 実技試験 定期試験
	2	合唱 実技試験	合唱コンクール課題曲，自由曲の練習を行う。 合唱コンクール課題曲の歌唱試験を行う。	
	3	復習	1年間のまとめを行う。	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
美術	美術	1.5	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『美術1』（光村図書）	なし

1. 学習の目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

また、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。さらに美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	素描 ・靴を描く	身近な対象である靴を、鉛筆を使って素描する。 普段見慣れているものでも、改めてよく観察することで、新鮮な発見を得られることを知ってもらう。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験
	5	素描 ・靴を描く	身近な対象である靴を、鉛筆を使って素描する。 普段見慣れているものでも、改めてよく観察することで、新鮮な発見を得られることを知ってもらう。	
	6	レタリング ・明朝体 ・ゴシック体	明朝体とゴシック体の特徴を学ぶ。「永」の字や、自分の名前に使われている字を用いて、レタリングをする。	
	7	レタリング ・明朝体 ・ゴシック体	明朝体とゴシック体の特徴を学ぶ。「永」の字や、自分の名前に使われている字を用いて、レタリングをする。	
2	9	色彩 ・色相環 ・混色	有彩色と無彩色、色の三属性、色相環、三原色、色の感情効果など、色彩の基礎を学ぶ。 減法混色を使い作品を制作する。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験

	10	色彩 ・色相環 ・混色	有彩色と無彩色，色の三属性，色相環，三原色，色の感情効果など，色彩の基礎を学ぶ。 減法混色を使い作品を制作する。	
	11	色彩 ・色相環 ・混色	有彩色と無彩色，色の三属性，色相環，三原色，色の感情効果など，色彩の基礎を学ぶ。 減法混色を使い作品を制作する。	
	12	色彩 ・色相環 ・混色	有彩色と無彩色，色の三属性，色相環，三原色，色の感情効果など，色彩の基礎を学ぶ。 減法混色を使い作品を制作する。	
3	1	彫刻 ・塑造 ・立体制作	粘土で立体作品を制作。各自が対象物をデッサンし，形体をつかむ。紙で心棒を作り，粘土でモデリングをする。手触りや質感などの細かい特徴を丁寧に観察しながら制作する。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験
	2	彫刻 ・塑造 ・立体制作	粘土で立体作品を制作。各自が対象物をデッサンし，形体をつかむ。紙で心棒を作り，粘土でモデリングをする。手触りや質感などの細かい特徴を丁寧に観察しながら制作する。	
	3	彫刻 ・塑造 ・立体制作	粘土で立体作品を制作。各自が対象物をデッサンし，形体をつかむ。紙で心棒を作り，粘土でモデリングをする。手触りや質感などの細かい特徴を丁寧に観察しながら制作する。	

※ 上記の内容は，各クラスの時間割によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
外国語	英語	6	中学1年 全クラス

使用教科書	副教材
『Here We Go! ENGLISH COURSE 1』(光村図書)	『新中学問題集 英語1年』(教育開発出版) 『新中学問題集 演習編 英語1年』(教育開発出版) 『Key ワーク 光村 英語1年』(教育開発出版) 『エイゴラボ①』(正進社) 『英検4級 での順パス単』(旺文社)

1. 学習の目標

正しい英語の音を理解し、聴き分け、発音できるようになる。その結果、リーディング・ライティング力と差のないリスニング、スピーキング力を身に着ける。また、基本的な英文法を理解した上で、反復トレーニングを行い、実践的な運用力を獲得する。さらに短時間で情報を読み取り、自分の考えを論理的に伝えられるようになる。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。	身近な話題について、他教科等での学習内容等と関連付けながら、互いの考えを適切に伝え合っている。	他者を尊重し、聞き手・読み手に配慮しながら、身に着けたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	身の回りの英語 アルファベット、 フォニックス I am ～, You are ～. の文	- 身の回りの語句や基本的な表現 - アルファベット、フォニックス - I am ～, You are ～. の文、否定文、疑問文	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り組み
	5	一般動詞(1・2人称) can の文	- 一般動詞の文 ・否定文と疑問文 - What do you ～? What 名詞 do you ～? - can を使った文、否定文、疑問文と答え方	
	6	This is ～. What is ～? の文	- a と an / This[That] is ～. - my と your / My name is ～. - This[That] is ～. の文、否定文、疑問文と答え方 - What is ～? と答え方	
		He is ～. Who is ～? の文	- He[She] is ～. の文、否定文、疑問文 - Who is ～? / his と her	
		名詞・代名詞の複数形	- 名詞の複数形 - How many ～? / some と any - 代名詞の複数形	
		形容詞、副詞	形容詞 ・副詞	
		命令文	- 命令文 - 否定の命令文 / Let's ～. の文	
		時刻、曜日	- 時刻の表し方とたずね方 ・曜日・日付のたずね方 / When～? 「時」を表す前置詞	
	7	時刻、曜日	- 時刻の表し方とたずね方 ・曜日・日付のたずね方 / When～? 「時」を表す前置詞	

2	9	一般動詞（3人称・単数） 目的格，所有代名詞	・一般動詞（3人称・単数）の文，否定文，疑問文 ・代名詞の目的格　・所有代名詞　・Whose～? と答え方	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り 組み
	10	疑問詞で始まる疑問文 現在進行形	・Where で始まる疑問文　・Which で始まる疑問文 ・How で始まる疑問文 ・現在進行形の文，否定文，疑問文と答え方	
	11	規則動詞の過去形 不規則動詞の過去形 be 動詞の過去形	・規則動詞の過去形，過去の否定文，疑問文と答え方 ・不規則動詞の過去形，否定文，疑問文 ・be 動詞の過去形，否定文と疑問文	
	12	過去進行形	・過去進行形の形と意味，否定文と疑問文	
3	1	未来の文 There is ～. の文	・be going to ～，will ・There is[are] ～. の文，否定文と疑問文	定期試験 提出物 小テスト 授業への取り 組み
	2	助動詞 会話表現 1年の復習	・can, may　・must, have to ～, should ・日常会話でよく使う表現 ・道案内・注文　/　感嘆文 ・中学1年の学習内容	
	3	1年の復習	・中学1年の学習内容	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
技術・家庭	家庭分野	1	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生をめざして』（東京書籍）	なし

1. 学習の目標

衣服の働きや選び方を学び、衣服の活用法や手入れ方法を理解する。また、ミシンの基本的な使い方及び手縫いでの基礎縫いができるようになり、簡単な衣服の修繕方法を知識・技術ともに理解する。さらに、住まいの役割や快適で安全な暮らし方を理解する。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自分の生活について関心をもち、充実・向上を目指し、主体的に取り組もうとする実践的な態度を身につけている。	さまざまな分野での課題を見いだして、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	さまざまな分野での課題を見いだして、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	衣生活と自立 衣服の選択と手入れ	衣服のはたらきを理解する。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物 出席状況
	5	衣服の役割	衣服の目的に応じた着方や、個性を活かした着方を知る。	
	6	私らしさとT.P.O ～着方の工夫～	既製服の適切な選択方法を知る。	
	7	生活を豊かにするために	衣服の手入れの必要性を理解する。	
2	9	被服実習（手縫い）	布の成り立ち、特徴について理解する。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物 出席状況
	10	作って楽しい布作品	並縫い、本返し縫い、まつり縫いを身につける。	
	11	持続可能な 衣生活を目指して	ボタン付けや補修の方法を身につける。	
	12	被服実習（ミシン）	ミシンの基本的な使い方を理解する。	
3	1	住生活と自立	住まいの役割を知る。	授業への取り組み 定期試験 小テスト 提出物 出席状況
	2	住まいの役割と安全な住まい方	快適に過ごすための室内条件を知り、自身の生活環境を見直す。	
	3	住まいの役割と安全な住まい方	室内環境を整える方法を理解し、生活に取り入れる。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
技術・家庭	技術分野	1	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『新しい技術・家庭 技術分野』（東京書籍）	なし

1. 学習の目標

材料の性質を知識として習得する。また、コンピュータの仕組みを知る。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
生活と技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	ガイダンス 情報分野	技術分野の学習の見通しをもつ。 情報機器の活用について知る。	授業への取り組み 提出物 出席状況 行動観察 定期試験
	5	情報の技術の原理・法則と 仕組み	情報の技術及び、デジタル化を知る。 ネットワークの仕組みを知り、安全に活用する方法を学ぶ。	
	6	材料と加工の技術の原則・ 法則と仕組み 材料と加工の技術による問題 解決	身の回りの材料と加工の技術を知る。 木材・金属・プラスチックの特性を知る。 製品を丈夫にする方法、製図について学ぶ。 設計の手順を知る。 材料に適した加工方法を知る。	
	7	製作の準備	工程表を作成する。	
2	9	製作 材料取り	部材の準備を行う。 部品のけがきを行う。 材料を切断する。	授業への取り組み 提出物 出席状況 行動観察 定期試験
	10	部品加工 組立て	穴あけを行う。 組立てを行う。	
	11	塗装 まとめ	仕上げ作業を行う。 問題解決の評価と改善・修正について考える。	
	12	社会の発展と材料と加工の 技術	加工技術の最適化について考える。	
3	1	双方向性のあるコンテンツ のプログラムによる問題解 決	双方向性のコンテンツについて学ぶ。 コンテンツを構想する。	授業への取り組み 提出物 出席状況 定期試験
	2	プログラムの作成実習	プログラムを制作する。 問題解決の評価、改善・修正について考える。	
	3	社会の発展と情報の技術	情報の技術の最適化を考える。	

※ 上記の内容は、進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
道徳	道徳	1	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
『中学道徳1 きみが いちばん ひかるとき』 (光村図書出版)	なし

1. 学習の目標

よりよい生き方とは、どのようなものかを考える。道徳的な問題を見つけ、その問題について考えを深め、自分で生きていけるようにする。また、道徳を学ぶことで、多様な感じ方や考え方、ものの見方を身につける。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
自分の意見を冷静に、秩序立てて表明できている。	他人の意見を尊重し、多目的に物事を見て判断する姿勢が身についている。	自ら積極的に考える姿勢を持てている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	1 導入	道徳科の学びの見通しをたて、これからの学びを広げたり、深めたりする態度を身に着ける。	授業への取り組み 提出物 観点別評価は行わない。
		2 思いやり、感謝	相手のことを考えて行動するときに大切なのはどんなことかを考える。	
		3 自主、自律、自由と責任	自分で何かを「決める」ときに大切なのはどんなことかを考える。	
	5	4 礼儀	人と関わるときに大切な礼儀の心とはどんなものかについて考える。	
		5 節度、節制	自分の生活を見直し、心と体の健康に気をつけ、望ましい生活習慣を身につけようとする。	
		6 思いやり、感謝	人を思いやるときに大切なことは何かについて考える。	
		7 友情、信頼	心から信頼できる友達とはどんな存在かについて考える。	
	6	8 公正、公平、社会正義	誰かが不公平な状況にあるときにどんな考えをもつことができるかについて考える。	
		9 公正、公平、社会正義	いじめが起こらないようにするためにどうすればよいのかを考える。	
		10 真理の探究、創造	真理を探究する心について考える。	
		11 よりよい学校生活、集団生活の充実	よりよい集団の一員であるためには、どんな考えが大切なのかについて考える。	
	7	12 生命の尊さ	命のどんなところに尊さを感じるのかを考える。	
		13 希望と勇気、克己と強い意志	夢をかなえるために大切なことは何かについて考える。	
2	9	14 向上心、個性の伸長	個性を伸ばすために大切なのは、どんなことかを考える。	授業への取り組み 提出物 観点別評価は行わない。
		15 自主、自律、自由と責任	自分の行動に責任をもつとはどういうことかについて考える。	
		16 自然愛護	人と自然がよりよい関係を築くためにはどんな考えが必要かについて考える。	
		17 相互理解、寛容	自分と異なる他者とわかり合うことについて考える。	

	10	18 節度, 節制	節度ある端末の使い方について考える。	
		19 家族愛, 家庭生活の充実	家族について考える。	
		20 社会参画, 公共の精神	ボランティアなどを通して社会に関わることで得られるものは何かについて考える。	
		21 生命の尊さ	身近な生き物の命について考える。	
	11	22 遵法精神, 公德心	法やきまりを守る心について考える。	
		23 遵法精神, 公德心	きまりについて考える。	
		24 勤労	人が働く理由とはどのようなものかについて考える。	
		25 相互理解, 寛容	人と人とがわかり合うために大切なことは何かについて考える。	
	12	26 公正, 公平, 社会正義	差別や偏見のない社会を目ざして, 自分たちにできることは何かを考える。	
		27 国際理解, 国際貢献	他国の人と理解し合うために大切なのはどんな心かを考える。	
	3	1	28 国の伝統と文化	授業への取り組み 提出物 観点別評価は行わない。
			29 生命の尊さ	
			30 郷土の伝統と文化	
		2	31 よりよく生きる喜び	
			32 感動, 畏敬の念	
			33 感動, 畏敬の念	
		3	34 よりよく生きる喜び	
			35 学びの振り返り	
			1年間の道徳で学んだことを振り返り, これからの自分の生き方について考えを深める。	

※ 上記の内容は, 進度によって変更される場合がある。

教科名	科目名	単位数	年・組
総合的な学習の時間		1	中学1学年 全クラス

使用教科書	副教材
なし	なし

1. 学習の目標

総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

2. 評価の観点

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解している。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現している。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら積極的に社会に参画しようとしている。

3. 学習計画および学習内容等

学期	月	単元・学習項目	学習計画および学習内容	評価方法
1	4	フィールド実習	・ガイダンス、整地 ・トウモロコシ、トマト、サトイモ定植 ・整地	
	5	フィールド実習	・ナス、ピーマン、サツマイモ定植 ・栽培管理（除草、支柱立て、誘引）	
	6	フィールド実習	・ジャガイモ、果実類収穫・栽培管理	
	7	フィールド実習	・ジャガイモ、果実類、トウモロコシ収穫	
2	9	フィールド実習	・大根、小松菜、ホウレンソウ、水菜播種、間引き ・キャベツ、ブロッコリー定植 ・白菜、ピーマン収穫	
	10	職業学習 フィールド実習	・「キッザニア東京」において、様々な職業を体験することによって働くことについて考える。 ・葉菜類収穫、播種 ・栽培管理	
	11	フィールド実習	・サツマイモ収穫 ・葉菜類、大根、サトイモ収穫 ・片づけ	

	12	国際理解教育	・英語圏の国々についての理解（文化，歴史など） ・ネイティブとの実践英会話練習 ・スピーチ発表	
3	1	フィールド実習	・果実類収穫 ・片づけ	
	2	フィールド実習	・土づくり ・ナス，ピーマン，トマト播種（次年度用）	
	3	フィールド実習	・ジャガイモ植え付け（次年度用）	

※ 上記の内容は，進度によって変更される場合がある。